

大府市議会

議長 早川 高光 様

大府市議会厚生文教委員会

委員長 木下 久子

# 報 告 書

～高齢者の生きがいつくりについて～

令和4年5月

大府市議会 厚生文教委員会

## 1 はじめに

当委員会は、令和3年6月16日、本市における高齢者の生きがいについて、現状及び課題を把握し、今後の市政運営に生かすため、所管事務調査として「高齢者の生きがいづくりについて」の調査を行うことに決定し、以降、閉会中を中心に調査を行ってきた。

このたび、調査研究の成果を取りまとめたので、その内容を以下のとおり報告する。

## 2 調査研究テーマの選定理由

テーマを選定する議論の中で、テーマ活動を始めて以来9年間、「健康づくり」「子ども」に関することが選定され、高齢者に関する調査がされていなかったことがわかった。当委員会は、全国的に課題となっている超高齢社会に目を向け、「高齢者」というキーワードを軸に調査研究することで一致した。その中でも特に、本市の多くの高齢者の皆さんが、様々な場面で元気に活躍されている姿を拝見し、あの元気の源は何かという議論となった。

「生きがい」が、元気に活動する源となっているのであれば、生きがいを持つことは大切なことであり、生きがいとはどのようなことなのか、生きがいをつくるためにはどうしたらよいかを考え、調査研究テーマを「高齢者の生きがいづくりについて」とし、調査研究を行うこととした。

## 3 調査研究の概要

### (1) 高齢者施策に関する勉強会

調査研究を行うに当たり、まず、委員間で勉強会を実施し、本市が取り組む高齢者に関する施策について、各種計画等を読み込み、高齢者を取り巻く現状や課題を把握し、内容やポイント等を委員間で共有した。

計画名	内容、ポイントなど
内閣府「高齢社会白書令和3年版」	全国の高齢者の全体像
第6次大府市総合計画	大府市の高齢者の現状や課題
大府市地域包括ケア推進ビジョン	お互い様の関係の重要性（人や地域とのつながり）
第2次大府市地域福祉計画	我が事として関心を持つことの必要性
『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進プラン2020-2030	心身の健康の大切さ
第8期大府市高齢者福祉・第1期大府市認知症施策推進計画	居場所づくりの必要性

## (2) 厚生文教委員勉強会

本市の高齢者の現状や今後の高齢者の生きがいくりについて、福祉部長、高齢障がい支援課長、地域福祉課長を講師とした勉強会を開催し、更に知識を深めた。

### 本市が実施している高齢者の生きがいくりに関する施策や役割など

- ・ 生きがいくりの根底となる、高齢者のその人らしい暮らしを実現するための生活支援制度やサービスの構築
- ・ 就労支援や社会参加の促進を図るために、就労的活動支援コーディネーターを社会福祉協議会に配置
- ・ 地域福祉行政だけではなく、生涯学習等の分野と協働することにより、高齢者自身が生きがいくりを「我が事」として捉え、共生社会の一員であることへの気づきを促すこと
- ・ 高齢者の生きがいくりや閉じこもり予防を目的に、常設サロン、ふれあいサロンを実施し、地域住民のつながりをつくるため、身近な地域であらゆる世代が気軽に集える全世代型サロンを実施

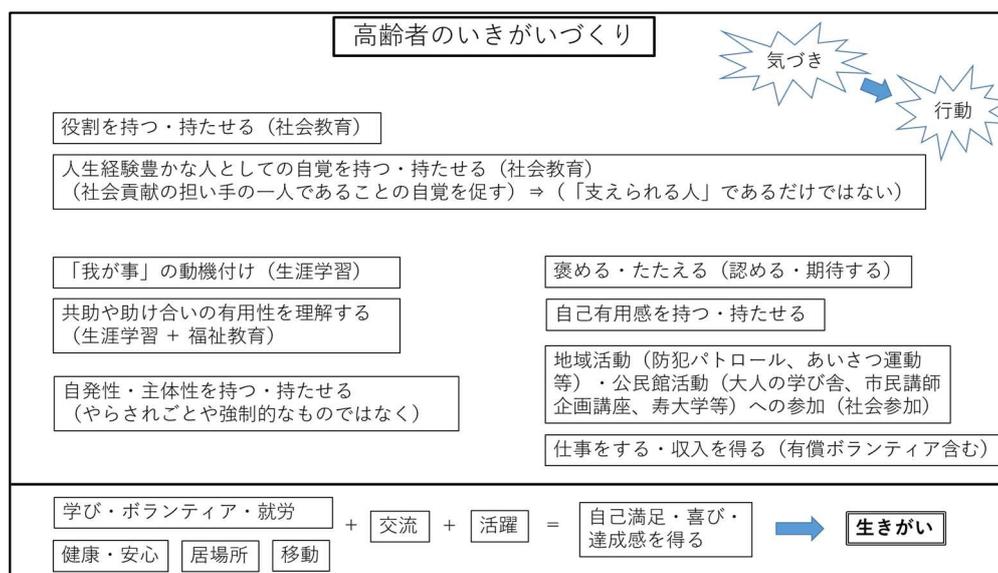


図1 ※福祉部作成

その後の委員意見交換会では、今後の常設・ふれあいサロンの在り方、生きがいくりのための「就労」「健康づくり」「場づくり」の必要性等の意見が挙げられた。

勉強会からは、生きがいくりに必要なことは何かについて学んだ。

### (3) 常設サロン訪問

高齢者の意見を直接聴くために、市内8か所ある常設サロンの内、6か所のサロンへ委員2名ずつのグループに分かれ訪問した。各委員が「生きがいづくり」についてや、サロンを利用している理由について、利用者と運営者に聞き取りを行い、貴重な意見を聴くことができた。

#### 主な意見

- ・楽しむためには、健康が一番である。
- ・無心で趣味ができ、ストレスがたまらない。
- ・サロンは、歩いて行けるところにあることが一番である。
- ・サロンへの移動手段を確保してほしい。
- ・家族の理解があるからこそ、サロンへ通えている。
- ・そもそもこれが「生きがい」だと思い活動しているわけではない。
- ・人のために何かできることが、自分の幸せにつながっている。



サロン訪問後の委員意見交換会では、下記の図2のように『<sup>きょうよう</sup>今日用事を作ること（教養）と、<sup>きょう</sup>今日どこかへ<sup>いく</sup>行くこと（教育）』を考えることが大切であり、サロンへ行き、人と交流すること、趣味があること、感謝されることなどが生きがいとなっている。しかし、サロンを利用している方は活動的であるが、サロンを利用していない方への支援が必要ではないか。また、サロン利用者のうち、大半を女性が占めており、男性の居場所はどこにあるのか。行政の役割としては、高齢者もスマートフォンなどを利用して情報を得ていることから、ICT支援を進める必要があるのではないかと課題がみえた。また、「移動手段」の充実も今後重要になってくると感じた。

生きがいづくりは、健康づくり、場づくり、家族の理解、お金、情報が土台となると考えた。



図2（サロン訪問後の委員意見交換会後のイメージ図）

#### (4) アンケート調査

さらに、高齢者の意見を聴くために、元気に活動している大府市老人クラブ連合会の役員の方々と就労している公益社団法人大府市シルバー人材センターの会員の方々へのアンケート調査を実施した。なお、二団体へのアンケートの回答では、生きがいについての考え方に違いは見られなかった。

〔調査対象者〕

- ・老人クラブ理事等 19名（男性16名、女性3名）71歳～82歳
- ・シルバー人材センター 18名（男性5名、女性13名）66歳～84歳

#### アンケート項目と主な回答

質問1：参加されたきっかけは何ですか

- ・知人や地区の老人クラブ役員からの誘い
- ・会報を読んで
- ・退職後の仕事探しや健康維持と社会参加のため

質問2：あなたにとっての「生きがい」とは何ですか

- ・子、孫との団らんや幸せ
- ・仲間や地域の方々とのふれあい
- ・人のために役に立つこと
- ・毎日、元気で健康に過ごせること
- ・目的や夢を見つけること

質問3：「生きがい」を持つために必要なことは何ですか

- ・心身ともに健康なこと
- ・家族や社会の一員として役割があることや自分の居場所があること
- ・いろいろな人と関わり、コミュニケーションを取ること
- ・ストレスをためないために趣味を生かし、いろいろなことにチャレンジをすること

アンケート調査結果を基に行った委員意見交換会では、アンケートの回答には、図2の土台の部分となる「お金」に関する意見はなく、「生きがい」は多種多様であることがわかった。

本市として「生きがいづくり」へのアプローチは「きっかけづくり」、「居場所づくり」、「周知」を進めていくべきではないかと考えた。

## (5) 厚生文教委員情報交換会

(4)のアンケート調査結果について、老人クラブの会長及び副会長と情報交換会を行った。役員として会員には、活動を通して「生きがい」を見出してもらいたいと前向きな熱い思いを感じることができた。内容は以下のとおりである。

### 主な意見

- お金と生きがいづくりの関係性について、お金に関する相談を受けたことはなく、いろいろな趣味のクラブに入るなど、それぞれがそれなりにやっている。
- 社会福祉協議会の広報誌や各地区で工夫して加入ちらしを作り、勧誘をしたり、知人等に声掛けを行っている。
- 老人クラブに入会して人とのつながりができるので、より充実した生活が送れる。
- 自分のやりたい趣味のクラブを立ち上げ、今では自分の趣味を楽しむことだけではなく、会を運営することが生きがいになった。
- 老人クラブの活動そのものが生きがいづくりとなっている。
- 生きがいとは、人それぞれであり、自然体で良く、気軽に楽しむことである。



情報交換会後の意見交換会では、老人クラブは「生きがい」を見つける場として重要な役割をする団体であることがわかった。老人クラブが老人福祉法において「老人福祉を増進するための事業」として位置付けられているため、行政がその目的のために、支援していくことが必要だと考える。

## (6) 愛知県社会福祉協議会「あいちシルバーカレッジ」について

サロン訪問時に、利用者から「あいちシルバーカレッジ」に通った話を伺い、「あいちシルバーカレッジ」が、高齢者の生きがいづくりにどのような影響を与える場となっているのかについて調査研究を行った。

「あいちシルバーカレッジ」は、愛知県社会福祉協議会が実施しており、受講者が、自ら体験する楽しさ、仲間と共に学び喜びを大切にすることで、生きがい・健康づくりの促進や地域における社会活動の中核を担う人材の養成を図ることを目的としている。

調査のため、現地視察を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、事前に依頼をしていた受講者数の実績や受講者のアンケート結果などの質問事項に対して書面で回答をいただき、その回答を基に委員間で意見交換会を行った。主な意見は下記のとおり。

- ・受講者は70代の方が多く、女性が6割となっている。
- ・シルバーカレッジを卒業した方に、資格、卒業証書（公的）などを与えることで認証欲求が満たされるのではないかと。
- ・地域で何かしたい、また、人の役に立ちたいという志の高い人が参加している。
- ・勉強（知的欲求）だけではなく、人との交流を持ち、励みになっているのではないかと。
- ・カレッジを市町で開催していくことで、地域での活動へと展開されるのではないかと。

本市としては、県や地域の大学との連携を図り、知的欲求を高めるために生涯学習を充実させることや、地域で活躍できる場を提供することが必要である。また、カレッジ卒業後、地域で活動しやすくするために、アドバイスができるコーディネーター等を配置することも必要である。教育を受ける場を設け、教養を身に付けてもらうことで、「生きがいづくり」への手掛かりになるのではないかと考えた。

#### 4 「生きがいづくり」のために

以上、これまでの調査研究の結果、高齢者の生きがいづくりについての施策をより推進するために、以下7つの留意点をあげる。

##### (1) きっかけづくり

「生きがいづくり」につながっているサロンの利用や運営、老人クラブの活動やシルバー人材センターでの就労において、参加するきっかけの多くは友人や知人からの声掛けであった。また、知的欲求を満たすことや就労的活動、有償・無償を問わずボランティア活動をとおした社会参加をすることも「生きがいづくり」のきっかけとなっている。

生きがいにつながるきっかけを得るためのまず第一歩として、市民が気楽に声を掛けることのできる地域づくりや社会参加しやすい環境整備及び情報提供をしていくことが大切である。

## (2) 居場所づくり

人との交流の場となっているサロン、社会活動ができる場や知的欲求を満たすことのできる生涯学習の場を更に充実させ、誰でも利用しやすく通いやすい居場所をつくることが重要である。

## (3) 健康づくり

社会参加するためには健康が第一である。多くの方が心身ともに健康であり、「健康寿命」の延伸へとつながるような施策を更に充実させ、参加する意欲を高めることが重要である。

## (4) 積極的な周知

きっかけづくり、居場所づくり、健康づくりについての施策を進めたとしても、その情報が高齢者に届かないと効果のないものになる。まずは、高齢者が我が事として捉えられるように、高齢者に関する施策を積極的に周知し、様々な選択肢を示すことが重要である。

## (5) ICT支援の強化

パソコンやスマートフォン等で様々な情報を得ることができる高齢者もいる一方、使いこなすことが困難な方もいる。しかし、日常生活を円滑にするためや仲間とのコミュニケーションを図るためにもICTの活用は必要なものとなっている。高齢者の地域活動や社会参加を促すために、ICT支援を強化していくことが重要である。

## (6) 移動手段の充実

「生きがいづくり」を見つけ出すこととして、「今日用事<sup>きょうよう</sup>を作ること（教養）と、今日<sup>きょう</sup>どこかへ行く<sup>いく</sup>こと（教育）」のように外出することは大切なことである。高齢者は移動手段が限られてしまう場合もあり、誰もが外出しやすくするためにも移動手段を充実させることが重要である。

## (7) 横断的な連携

高齢者の生きがいは多岐にわたるため、福祉部署だけではなく、他部署との連携により、幅広く高齢者を支える仕組みが必要である。また、愛知県の行っている施策との効果的な連携を行うことや、実際に地域活動等を行っている高齢者とも連携を深め、必要な情報の提供や相談体制の充実が重要である。

## 5 おわりに

「高齢者の生きがいづくりについて」の調査研究を通して、これからの自分にとっての「生きがい」について考える良い機会となった。情報交換会やアンケート結果から「生きがい」は人それぞれで良いのだと感じた。そもそも、「これが生きがいである！！」と思い活動しているわけではなく、サロンへ行き同じ趣味の仲間とおしゃべりをして楽しんだり、働くことを通じて社会貢献になっていたり、地域活動をする中で人の役に立ち、自己有用感を得ることができ、それが「生きがい」となっている。サロンの運営や老人クラブの役員などの苦労は絶えないことであるが、それもまた「生きがい」となり、気負わず楽しく活動することが心身の健康へとつながり、活発な活動ができていないのではないかと思う。また、サロンや趣味のクラブなどには参加していないが、自分の趣味や孫の世話をすることに生きがいを感じている方もいる。

「生きがい」は、人それぞれであるが、心に潤いを与え、健康に過ごすためには大切であり、そのためにも「生きがいづくり」が肝心となる。

本市としては、第一に福祉面で十分な支援を行い、活動しやすい環境にすることが重要である。「健康都市おおぶ」として、一人でも多くの高齢者が心身ともに充実した人生を送ることができ、本市に住んで良かったと思うことができるまちとなる施策を期待する。

最後に、当委員会の調査活動に御協力いただいた全ての方々に、この場をお借りしてお礼を申し上げ、本報告書の結びとする。



## 調査研究の経過

- (1) 令和3年6月1日（火） 厚生文教委員意見交換会
  - ・ 1年間の活動の流れについて、委員間で情報を共有した。
- (2) 令和3年6月16日（水） 厚生文教委員会
  - ・ 所管事務調査として「高齢者の生きがいくりについて」の調査を行うことに決定した。
- (3) 令和3年7月5日（月） 厚生文教委員意見交換会
  - ・ 「高齢社会白書令和3年版」及び「第6次大府市総合計画」を勉強し、現状、課題等について意見交換を行った。
- (4) 令和3年7月12日（月） 厚生文教委員意見交換会
  - ・ 「大府市地域包括ケア推進ビジョン」及び「第2次大府市地域福祉計画」を勉強し、現状、課題等について意見交換を行った。
  - ・ 令和3年10月20日に徳島県上勝町へ視察を行うこととした。  
※新型コロナウイルス感染拡大により、中止とした。
- (5) 令和3年7月19日（月） 厚生文教委員意見交換会
  - ・ 「『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進プラン2020-2030」及び「第8期大府市高齢者福祉・第1期大府市認知症施策推進計画」を勉強し、現状、課題等について意見交換を行った。
- (6) 令和3年7月28日（水） 厚生文教委員勉強会・意見交換会（委員派遣）
  - ・ 福祉部長、地域福祉課長、高齢障がい支援課長を講師とした勉強会を行い、本市の高齢者の生きがいくりの現状、課題等について、委員間で認識を共有した。
- (7) 令和3年10月21日（木） 厚生文教委員意見交換会
  - ・ 老人クラブ及びシルバー人材センターへのアンケート調査内容について、意見交換を行い、決定した。  
※アンケート調査期間 11月4日から12月上旬まで
  - ・ 常設サロン（6箇所）への訪問日時等を決定した。

- (8) 令和3年11月4日(木)～11日(木) 厚生文教委員サロン視察(委員派遣)
- ・ 6箇所の常設サロンへ委員2名ずつのグループに分かれ訪問した。各委員が「生きがづくり」についてや、サロンを利用している理由などを利用者と運営者に聞き取りを行った。
- (9) 令和3年11月16日(火) 厚生文教委員意見交換会
- ・ サロン訪問を終えて、委員から提出された報告書を基に、各委員の所感を求め、意見交換を行った。
  - ・ 老人クラブ連合会の会長等と情報交換会を実施することとした。
  - ・ テーマ活動全体会議について、委員間で事前確認を行った。
  - ・ これまでの内容を振り返り、委員間で認識を共有した。
- (10) 令和3年11月22日(月) テーマ活動全体会議
- ・ テーマ活動に関する中間報告を委員長から行い、報告内容に対し、委員外議員から質疑や意見をいただいた。
- (11) 令和3年12月13日(月) 厚生文教委員意見交換会
- ・ テーマ活動全体会議において委員外議員からいただいた質疑や意見について、委員間で意見交換を行い、報告書の内容を検討した。
  - ・ 令和4年1月13日に大府市老人クラブ連合会との情報交換会を行うことを決定した。
  - ・ 令和4年1月19日に愛知県社会福祉協議会へ視察を行うこととした。  
※新型コロナウイルス感染拡大により、中止とした。
- (12) 令和3年12月22日(水) 厚生文教委員意見交換会
- ・ アンケート調査の結果を基に意見交換を行った。
  - ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (※) 令和4年1月8日(土)、15日(土) 全世代型サロン訪問(委員会外活動)
- ・ 新設された2箇所の全世代型サロンを訪問した。
- (13) 令和4年1月13日(木) 厚生文教委員情報交換会(委員派遣)・意見交換会
- ・ 大府市老人クラブ連合会と「高齢者の生きがづくりについて」情報交換を行った。

- (14) 令和4年1月19日(水) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (15) 令和4年2月3日(木) 厚生文教委員会意見交換会
- ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (16) 令和4年2月17日(火) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (17) 令和4年3月18日(金) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (18) 令和4年4月6日(火) 厚生文教委員会
- ・ 報告書の内容を決定し、本会議で報告することとした。

## 厚生文教委員会委員名簿

(令和3年5月13日～令和4年5月13日)

役職名	氏名	所属会派
委員長	木下 久子	市民クラブ
副委員長	酒井 真二	自民クラブ
委員	大西 勝彦	市民クラブ
委員	鷹羽富美子	風民の会
委員	柴崎 智子	公明党
委員	山本 正和	自民クラブ

(備考)

正副委員長のほかは、議席番号順